

# アジア健康構想下におけるベトナムとの案件形成可能性 調査及びインドネシアの現地保健課題と人的ネットワー ク調査

最終報告書（概要版）

---

**MRI** 三菱総合研究所

2025年1月30日

海外部 ヘルスケア事業本部

---

<b>1. 本調査の概要</b>	<b>3</b>
<b>2. カウンターパート・有識者・日系企業へのヒアリングの実施</b>	<b>4</b>
<b>3. ハノイ医科大学病院の問題意識を踏まえた案件形成可能性調査</b>	<b>5</b>
3.1 高齢化及び栄養関連の課題における日越協力のためのロードマップの作成	5
3.2 ハノイ医科大学病院等と日本関係者とのフォローアップ大会の実施	7
<b>4. ホーチミンを拠点とする大学もしくは病院等と日本企業のマッチングを通じた案件形成可能性調査</b>	<b>8</b>
<b>5. インドネシアの保健課題と人的ネットワーク調査</b>	<b>9</b>
<b>6. 成果報告会の開催</b>	<b>10</b>
<b>7. まとめと今後の方向性</b>	<b>11</b>
<b>8. 参考</b>	<b>12</b>

# 1. 本調査の概要

## 調査の背景・目的

- ベトナムにおいては、2019年7月に日本政府と越保健省との間で保健分野における協力覚書を署名した。2023年10月に、ICT医療や高齢化をテーマとしたハノイ医科大学病院を中心とするベトナムの医療関係者とのワークショップを開催したほか、同年11月に第1回日越ヘルスケア合同委員会をオンラインで開催した。インドネシアにおいては、2020年10月に日本政府と尼保健省との間で保健分野における協力覚書を署名しており、アジア健康構想を通じた保健分野における二国間の協力の深化と民間事業の振興が掲げられている。
- 昨年度、ベトナムにおける一連の調査及び政府間会合の中で、ベトナム保健省及びハノイ医科大学病院から、高齢化と栄養等の分野における課題意識と、日本との連携に関する要望が挙げられた。また、昨年度事業の中で、特に南部のホーチミンにおいて、日本が保健課題の解決に資するプロジェクトを実施することに対する医療関係者及び日本企業からのニーズが強いことが明らかになった。
- そこで、本年度は、**ベトナムの高齢化・栄養等のテーマに焦点を当てながら、日本企業のソリューション調査と現地関係者とのネットワーク構築を進めること**、また**インドネシアにおいては現地の医療課題及び規制、日本に対する期待等の調査を行うこと**で、**日本とベトナム及び日本とインドネシアの保健分野における協力を一層加速すること**を目的として、本調査事業を実施した。

## 調査スケジュール

日程	主な実施事項
5月	● 調査のキックオフ・ロードマップ仮案の作成開始
6月	● ハノイ・ホーチミンにおけるカウンターパート候補の調査、ヒアリングの調整、有識者候補の検討、イベント日程に関する検討 ● インドネシア保健課題に関するデスクトップ調査開始
7月	● ハノイ・ホーチミンにおけるカウンターパートへのヒアリング実施 ➢ハノイ医科大学病院※オンライン+現地 ➢ホーチミン医科薬科大学①※オンライン+現地 ➢ホーチミン医科薬科大学②※現地 ● 有識者候補の検討
8月	● ハノイ・ホーチミンにおけるカウンターパートへの追加ヒアリング実施 ➢ハノイ医科大学病院※現地 ● 日本企業への声かけ、ヒアリングの実施

日程	主な実施事項
9月	● ハノイ・ホーチミンでのイベントに向けた調整 ● インドネシア保健課題に関するヒアリング調整
10月	● ハノイ・ホーチミンでのイベントに向けた詳細調整 ● インドネシア保健課題に関するヒアリング実施（オンライン）
11月	● ハノイ・ホーチミンでのイベント開催 ➢ハノイ：「Viet Nam - Japan Population Aging and Nutrition Seminar（日越における高齢化・栄養課題に関するセミナー）」（11月12日） ➢ホーチミン：「Viet Nam - Japan Healthcare Seminar and Business Matching（日越におけるヘルスケアセミナー・ビジネスマッチング）」（11月14日） ● インドネシア保健課題に関する現地調査
12月	● 成果報告会に向けた調整
1月	● 成果報告会「アジア健康構想における保健課題解決を目指す日本企業交流セミナー」の開催（1月16日）

## 2.カウンターパート・有識者・日系企業へのヒアリングの実施

- ベトナムにおける保健課題と日本へのニーズ、ならびに日本側が提供可能なソリューションを調査するため、カウンターパートであるハノイ医科大学病院、ホーチミン医科薬科大学、日本側有識者等に対してヒアリングを実施した。また、ヒアリングで明らかになったベトナム側のニーズをもとに、ハノイ及びホーチミンでのイベントに登壇する日本企業を選定した。

### カウンターパートへのヒアリング

ハノイ医科大学病院から挙げられたニーズ	ホーチミン医科薬科大学から挙げられたニーズ
<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化：介護従事者の人材育成、テレヘルスの活用、健康増進施策・健診等の知見の共有</li> <li>栄養：栄養士の人材育成、高齢者の嚥下機能低下に関する栄養対策、サテライト病院向けの高齢者向け栄養トレーニングの実施、食品安全に関連した微生物検査機器、病院食の保温カート等の知見の共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>舌画像から胃がんの可能性を判定する研究に関して、内視鏡やAI画像診断関連企業の紹介</li> <li>小児の遺伝性疾患に関して、遺伝子スクリーニングに関する医療機器や試薬の提供</li> <li>高齢者のデイケア、地域包括ケアシステムなど地域単位でのケアに関する知見の共有</li> <li>高齢者の慢性疾患のモニタリング、介護関連機器、電子カルテ等のソフトウェア</li> </ul>

### 有識者ヒアリング

氏名	所属
肥後 裕輝	九州大学留学生センター 教授、九州大学アジア・オセアニア研究教育機構(Q-AOS) エイジングモジュール長
五味 郁子	神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 栄養学科 教授
森山 智彦	九州大学病院 国際医療部 アジア遠隔医療開発センター長

### 有識者ヒアリングにより得られた意見

- 日本の栄養分野の知見は貴重で、ベトナムとの共有に価値がある。また、高齢化に伴う財政問題を見据え、介護保険制度の導入や専門家・管理職の人材育成において日越協力の可能性が期待される。
- 10年ほど前は入院患者向けの病院食が存在していなかった。現在は病院食の提供が進んでいるが、食事療法に関する知見の不足が課題となっている。例えば、日本では糖尿病治療において食事療法が一般的であるが、ベトナムではそうではない。また、病院食の普及に伴い衛生状態への懸念が生じており、離乳食や嚥下食、介護食に関する日本の知見共有への関心も高まっている。
- ベトナムでは胃がんの多発と病理医・指導医不足が課題で、AIによる内視鏡診断に期待が寄せられている。交通事故が多いため、リハビリやパワードスーツに対する関心も高い。栄養分野では病院食の改善や医師教育、市民の栄養意識向上が重要とされている。

### 登壇企業

場所	企業名	ソリューション概要
ハノイ 登壇企業	インフィック株式会社	介護施設運営、高齢者見守りセンサー
	メドリング株式会社	電子カルテ、高齢者向け移動車医療提供サービス（医療MaaS）
	医療法人IMSグループ	ベトナム看護協会に対する教育制度の支援実施、グループ会社アイフーズで介護食・嚥下食製造
	株式会社ユカシカド	栄養測定・食品提供
	栄研化学株式会社	大腸がんの早期発見に資するスクリーニング検査（便潜血検査）
	エルピクセル株式会社	X線等の画像読影支援AI
	コニカミノルタ株式会社	デジタルX線動画撮影システム
ホーチミン 登壇企業	Lea Bio株式会社	事前問診システム、遠隔医療システム・PHRシステム（開発中）
	栄研化学株式会社	（ハノイ登壇企業の欄に記載があるため略）
	オリンパス株式会社	医療用内視鏡機器及び関連機器の販売及びサービス
	富士フイルム株式会社	CT/MRI、X線、内視鏡機器、AI画像診断、がん検診を中心とした健診センター「NURA（ニューラ）」の展開
	メドリング株式会社	（ハノイ登壇企業の欄に記載があるため略）
株式会社Redge	医療機器の保守管理の質向上を目指すCeTraxシステム、臨床現場の体験が可能なVRカメラ機器	

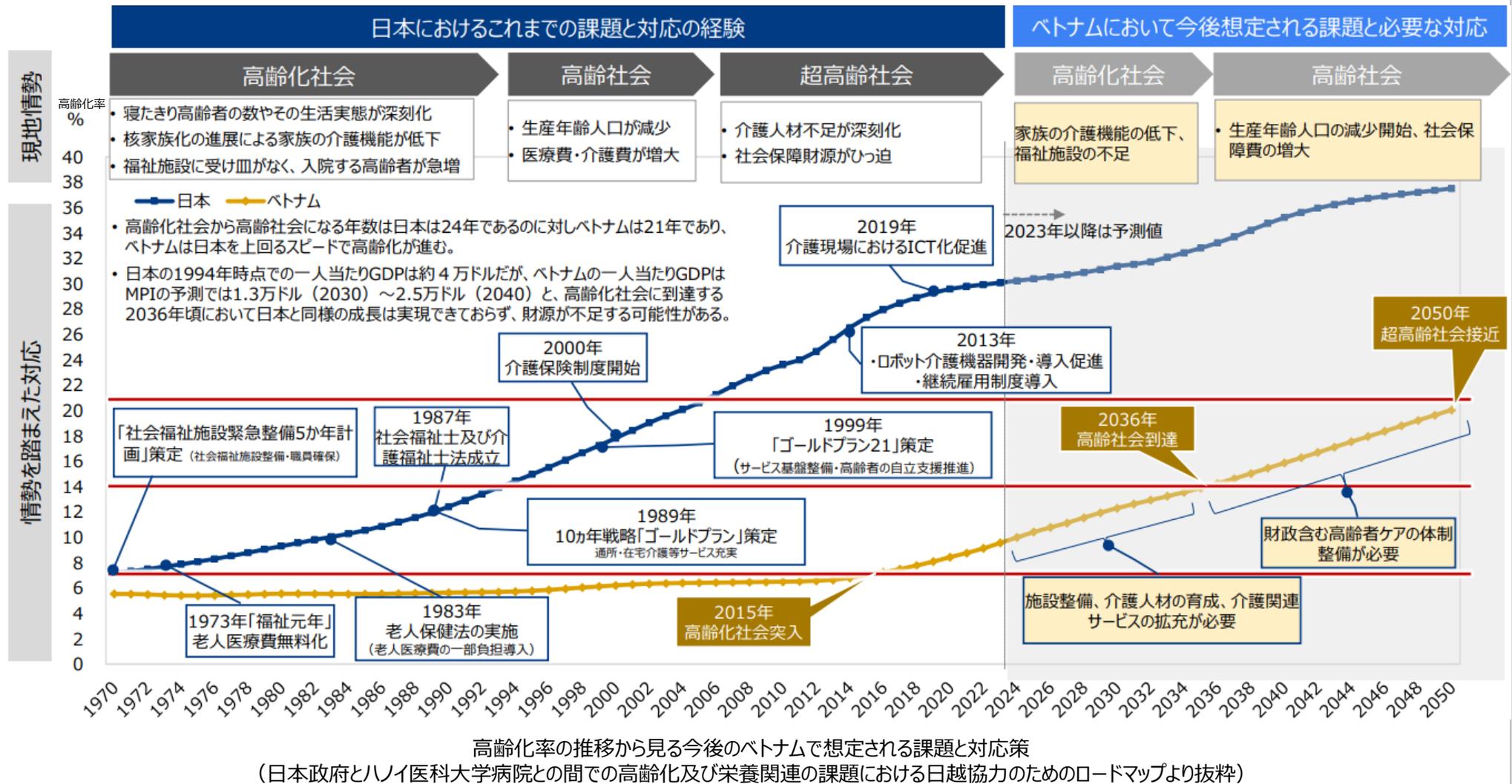
### 3. ハノイ医科大学病院の問題意識を踏まえた案件形成可能性調査

#### 3.1 高齢化及び栄養関連の課題における日越協力のためのロードマップの作成

- 昨年度事業のフォローアップとして、中長期的な協力の方向性を認識共有するため、ロードマップを作成した。

##### ロードマップのポイント①

- ベトナム側にとっても受け入れやすいロードマップとなるよう、高齢化・栄養のそれぞれの分野で、日本の政策形成過程及びその背景についても記載を行いつつ、ベトナムにおいて今後想定される課題と必要な対応について記載を行った。



### 3. ハノイ医科大学病院の問題意識を踏まえた案件形成可能性調査

#### 3.1 高齢化及び栄養関連の課題における日越協力のためのロードマップの作成

##### ロードマップのポイント②

- 中長期的な協力の方向性については、ベトナム側のニーズや政策タイムラインも反映しながら、日越協力の方向性と日本ソリューション例に関して記載した。
- 作成されたロードマップについては、11月12日のハノイでのイベントにおいて日本政府とハノイ医科大学病院との間で合意した。

これまで把握しているニーズ・方針に基づいた軸	現在	短期（～2025頃）	中期（～2030頃）	長期（～2035頃）
政策対話の実施	● 2024/7MOC更新	● 2029/7MOC更新	● 2034/7MOC更新	ベトナムの高齢化に伴う課題解決、日越官民の連携強化
	【日越】日越ヘルスケア合同委員会（JCM）の開催 【日越】人材育成（介護従事者等）に関する政策知見の共有			
MExx構想の推進	● 2022/7MOU締結	【日越】MEV構想を通じて、高齢化等の重点分野の知見交換・人材交流		
	【日本のソリューション例】HMHUがん検診センターに日本の医療機器の提供			
家庭・地域と連携したコミュニティでの高齢者ケア	【日越】地域包括ケアシステムの取組などの知見交換			
	【日越】医療施設との情報共有の知見交換	【日越】協同検証の推進	【日越】情報共有システム普及	
	【日本のソリューション例】電子カルテ、地域包括ケアシステムを支える情報共有システム			
高齢者向け見守り・認知症予防	【日】日本における高齢者向け住宅に関する建築基準の共有			
	【日】高齢者向け見守りソリューションや認知症予防の取組紹介	【日越】介護施設等での協同検証の推進	【日越】見守り・認知症予防ソリューション普及	
	【日本のソリューション例】見守りセンサー（カメラ系、バイタル系等）、訪問介護による見守り、認知症予防用品、慢性疾患モニタリング			
高齢者向け家庭用品の展示会	【日越】高齢者向け家庭用品を紹介する場の検討・推進			
テレヘルスの活用	【日越】地方の病院・リハビリ施設への指導等におけるテレヘルス活用の知見交換			
慢性疾患による医療体制ひっ迫対策	【日越】高齢者向け健康増進・健診の知見交換	【日越】協同検証の推進	【日越】健康管理・診断機器の普及	
	【日本のソリューション例】健康スコアリングサービス、健康管理・指導サービス（アプリ系等）			
	【日越】在宅医療の知見交換	【日越】日本企業と連携した在宅医療サービスの展開		

高齢化部分のロードマップ（日本政府とハノイ医科大学病院との間での高齢化及び栄養関連の課題における日越協力のためのロードマップより抜粋）

### 3. ハノイ医科大学病院の問題意識を踏まえた案件形成可能性調査

#### 3.2 ハノイでのフォローアップ大会の実施

- 昨年度のフォローアップと高齢化・栄養に関する知見の共有等を目的として、フォローアップ大会を11月にハノイ医科大学病院にて同病院と共催で実施し、ハノイ医科大学病院関係者、日本側有識者、日本企業等が登壇した。

開催概要		プログラム	
<p>目的：昨年度のフォローアップ、第1回日越ヘルスケア合同委員会で取り上げられた高齢化と栄養に関する知見の共有、ロードマップの合意            主催：内閣官房 健康・医療戦略室 共催：ハノイ医科大学病院            日時：2024年11月12日（火）8：30-12:00            場所：ハノイ医科大学病院</p>		<p>8:35-8:45 【開会挨拶】            鈴木 秀生 内閣官房 健康・医療戦略室 国際保健担当大使            ※ビデオメッセージ            伊藤 直樹 在ベトナム日本国大使            Nguyen Lan Hieu ハノイ医科大学病院 院長</p>	
<p>結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ベトナム側からハノイ医科大学病院のヒュウ院長をはじめとした医療関係者を含め、151名のベトナム人が参加。日本人参加者23名を含め、現地では計174名、オンラインでは89名の参加があった。</li> <li>・ ロードマップの手交を含め、ハノイ医科大学病院側との今後の協力量針を合意しつつ、日本企業のソリューションを紹介するとともに、日越双方の有識者から知見が共有され、ベトナムの保健課題の解決に向けて多くの関係者との認識の共有を行った。</li> <li>・ セミナーの結果は、ハノイ医科大学病院のSNSや、日系メディアでも取り上げられた。</li> </ul>		<p>8:45-8:55 【ハノイ医科大学病院と日本政府の間での高齢化及び栄養関連の課題における日越協力のためのロードマップについて】            片岡 真理華 内閣官房 健康・医療戦略室 参事官補佐</p>	
<p>講演内容（概要）</p>		<p>8:55-9:05 【フォトセッション：ロードマップの手交、全体写真】</p>	
<p>Tran Viet Luc ベトナム老年病院 副院長</p>		<p>9:05-9:35 【ベトナムにおける人口高齢化と栄養：課題とニーズについて】            Tran Viet Luc ベトナム老年病院 副院長            Nguyen Thuy Linh ハノイ医科大学病院 栄養科長</p>	
<p>Nguyen Thuy Linh ハノイ医科大学病院 栄養科長</p>		<p>9:35-9:50 休憩</p>	
<p>Nghiem Nguyet Thu ベトナム国立栄養研究所 臨床栄養科長</p>		<p>9:50-11:00 【日本企業8社からのプレゼン】</p>	
<p>肥後 裕輝 九州大学留学生センター教授、九州大学アジア・オセアニア研究教育機構 (Q-AOS) エイジングモジュール長</p>		<p>11:00-11:15 【ベトナム政府の栄養に関する戦略と取組について】            Nghiem Nguyet Thu ベトナム国立栄養研究所 臨床栄養科長</p>	
<p>五味 郁子 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 栄養学科 教授</p>		<p>11:15-11:55 【人口高齢化と栄養関連の課題に対応に関する日本の経験について】            肥後 裕輝 九州大学留学生センター 教授、九州大学アジア・オセアニア研究教育機構 (Q-AOS) エイジングモジュール長            五味 郁子 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 栄養学科 教授</p>	
<p>日本では介護サービスに管理栄養士による栄養ケアが制度化。ベトナムでも、病院給食や栄養管理、嚥下障害の管理方法が重要となる。</p>		<p>11:55-12:00 【閉会挨拶】            Ho Thi Kim Thanh ハノイ医科大学副学長</p>	



←伊藤直樹在ベトナム日本国大使から、ハノイ医科大学病院のグエン・ラン・ヒュウ院長への高齢化及び栄養関連の課題における日越協力のためのロードマップの手交



## 4. ホーチミンを拠点とする大学もしくは病院等と日本企業のマッチングを通じた案件形成可能性調査

- ホーチミン医科薬科大学・病院のニーズを踏まえ、11月にホーチミンにて、高齢化等の保健課題をテーマとしたセミナー及び日本企業5社とホーチミン医科薬科大学関係者等とのマッチングイベントを実施した。

開催概要
<p>目的：ホーチミンにおける高齢化等の保健課題に関する課題認識と日本の知見・ソリューションの共有・日越の協力推進</p> <p>主催：内閣官房 健康・医療戦略室 共催：ホーチミン医科薬科大学</p> <p>日時：2024年11月14日（木）8:30-12:00</p> <p>場所：Windsor Plaza Hotel</p> <p>参加日本企業（登壇順）：栄研化学株式会社、オリンパス株式会社、富士フィルム株式会社、メドリング株式会社、株式会社Redge</p>

結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現地参加者として85名が参加（うちベトナム人は62名、日本人は23名）。オンラインでは39名が視聴。</li> <li>・ ホーチミンの高齢化等の保健課題に対し、日越双方の有識者から知見が共有されたほか、日本企業とホーチミン医科薬科大学病院等とのマッチング面談も行われた。</li> <li>・ 開催結果は、現地メディアや、日系メディアでも取り上げられた。</li> </ul>

講演内容（概要）	
Tran Diep Tuan ホーチミン医科薬科大学評議会議長	ベトナムの高齢化に向けて、医療従事者不足とシステム整備が急務。日本の知見を活用したい。
Nguyen Van Tan ホーチミン医科薬科大学老年学科長	ベトナムは個々人が十分に裕福になる前に、高齢化が進行中。医療アクセス難と年金不足が課題。NCDs対策が急務。
Pham Chanh Trung ホーチミン市人口家族計画局長	ホーチミン市でも高齢化進行中、核家族化対策が急務。教育と地域連携強化を図りたい。
森山 智彦 九州大学病院 国際医療部 アジア遠隔医療開発センター長	高齢化でがん増加が予測される。九州大学でも実績のある、遠隔医療教育が医療格差解消に貢献できる。
肥後 裕輝 九州大学留学生センター 教授、九州大学アジア・オセアニア研究教育機構 (Q-AOS) エイジングモジュール長	ベトナムにおいて高齢化進行中。日本の介護保険制度が参考になると考えられる。

プログラム	
8:35-8:50	【開会挨拶・フォトセッション】 鈴木 秀生 内閣官房 健康・医療戦略室 国際保健担当大使 ※ビデオメッセージ Nguyen Van Chinh ホーチミン医科薬科大学 副学長
8:50-9:00	【アジア健康構想について】 片岡 真理華 内閣官房 健康・医療戦略室 参事官補佐
9:00-9:40	【日本企業5社からのプレゼン】
9:40-10:25	【ベトナムにおける高齢化等のヘルスケア課題について】 Tran Diep Tuan ホーチミン医科薬科大学評議会議長 Nguyen Van Tan ホーチミン医科薬科大学老年学科長 Pham Chanh Trung ホーチミン市人口家族計画局長
10:25-10:35	休憩
10:35-11:15	【高齢化に関するヘルスケア課題に対応した日本の経験について】 森山 智彦 九州大学病院 国際医療部 アジア遠隔医療開発センター長 肥後 裕輝 九州大学留学生センター 教授、九州大学アジア・オセアニア研究教育機構 (Q-AOS) エイジングモジュール長
11:15-11:55	【ベトナムにおけるヘルスケア課題に対応するための潜在的ソリューションの紹介（マッチング面談）】 日本企業5社と現地カウンターパートとのブース面談



## 5. インドネシアの保健課題と人的ネットワーク調査

- インドネシアにおいては、2020年10月に日本政府と尼保健省との間で保健分野における協力覚書（MOC）を署名し、アジア健康構想を通じた保健分野での二国間協力の深化を掲げている。本年度は、今後の二国間協力の推進のため、アジア健康構想に基づく協力パートナーとなり得るインドネシアの大学や病院とのネットワーク構築を進めるとともに、現地の保健課題や規制、日本に対する期待等の実態調査を実施した。

### デスクトップ調査

#### 概要

インドネシア保健省の「ヘルスマスタープラン2024-2029」に記載された重点項目及び日本・インドネシア間で交わされたMOCに記載されている協力分野を参考に、高齢化、非感染性疾患（NCDs）、人材育成、プライマリーヘルスケアを調査トピックとして選定した。

【MOC記載の協力分野】

医薬品及び医療機器/人材開発/保健医療サービス/医療情報技術/高齢者介護サービス/疾病の予防と管理/環境衛生

### オンラインヒアリング

- 現地の医療課題・規制の把握等を目的に、インドネシアで事業を行う日本企業3社にオンラインヒアリングを実施した。

	事業概要	得られた意見
A社	・現地パートナーと協力して、インドネシアで人工透析施設の運営事業等を実施	・透析事業では専門の看護師をはじめとした医療人材不足や治療の質の低さが課題であり、外資規制の強化も懸念。
B社	・インドネシアの現地医療従事者向けにオンライン教育コンテンツ配信プラットフォームを提供	・インドネシアはデジタル化への関心が高く、電子カルテ（EMR）導入が進む。地域間の偏り、専門医・総合医の格差、看護師の地位の低さ等が人材に関する課題である。
C社	・クリニックマネジメントシステムの開発とクリニック運営を行う現地企業に対し、同社のシステムを連携	・外資規制が厳しいプライマリーヘルスケア市場への参入は慎重な検討が必要。政府間対話を通じての民間に向けた情報共有に期待。

### 現地調査

#### 概要

目的：日本企業の海外展開促進のためのインドネシアにおける保健課題や規制の実勢把握と、今後の協力に向けた人的ネットワークの構築

日程：2024年11月26日（火） - 11月29日（金）

（主な訪問先）

日程	訪問先
11月28日	D社（日系医療機器メーカー）
	E病院（現地クリニック、日系企業が資本業務提携）
	F病院（現地国立病院がんセンター）
11月29日	G病院（現地病院。透析センターを日系企業が運営支援）
	H病院（現地病院）
	国際機関I
	国際機関J
	日本政府機関K

#### 結果

- 無料の健康診断実施を含むプライマリーヘルスケアの強化と、医師・看護師不足という課題に起因する人材育成、とりわけ専門医・専門看護師の育成の2点が主な課題として挙げられた。
- 今後の協力においては、健診センター設立やスクリーニング検査の協力等、健診を通じた病気の早期発見に資するプライマリーヘルスケアの拡充と、医療従事者育成を中心とした人材育成体制の構築が重要なテーマになると考えられる。

## 6. 成果報告会

- 2025年1月、本年度事業の成果報告、及び今後の戦略等の情報共有等を目的として、「アジア健康構想における保健課題解決を目指す日本企業交流セミナー」を開催した。

### 開催概要

目的：ハノイ・ホーチミンでのイベントに登壇頂いた企業から、イベント参加の経験を踏まえたベトナムでの事業の成果や今後の戦略等について情報共有、対面参加者間での参加者交流会

主催：内閣官房 健康・医療戦略室

日時：2025年1月16日（木）13：30-16：30

※15：30～16：30：参加者交流会（現地参加のみ）

場所：株式会社三菱総合研究所 4階大会議室

参加日本企業（登壇順）：インフィック株式会社、エルピクセル株式会社、コニカミルタ株式会社、株式会社ユカシカド、Lea Bio株式会社、栄研化学株式会社、メドリング株式会社、オリンパス株式会社、富士フイルム株式会社、株式会社Redge

### 結果

- ・ 現地会場には58名、オンラインでは56名、計114名が参加した。
- ・ 登壇した企業からは、11月のハノイ・ホーチミンでのイベントを踏まえ、ベトナムの医療機関との共同プロジェクトに関する報告や今後の事業展開に関する方向性に関する発表があった。また、イベント後のフォローアップや他国への展開について、日本政府からの更なる支援を期待する声が聞かれた。
- ・ パネルディスカッションでは、登壇した有識者から、ベトナムの保健課題に関するコメントと日本企業の取組に関する期待感が示されるとともに、日本政府及び関係機関からの講評・支援の取組紹介が行われた。
- ・ 参加者交流会において、活発な意見交換や情報共有が行われた。

### パネルディスカッションにおける主なコメント

- ・ 高齢化社会に対応できるリーダーシップのある人材を育成する必要がある。
- ・ 日本企業の現地での製品紹介の際には、使用する対象や、メリット、実績等を分かりやすく見せる必要がある。
- ・ 健診体制、栄養素データベース等の整備が求められている。
- ・ 医療レベルの引き上げ・コメディカルの人材育成が重要。
- ・ 急速な高齢化、急速な疾病構造に伴う市民側の意識啓発も重要。

### プログラム

13:30-13:35	【開会挨拶】 鈴木 秀生 内閣官房 健康・医療戦略室 国際保健担当大使
13:35-13:45	【今年度調査事業説明】 片岡 真理華 内閣官房 健康・医療戦略室 参事官補佐
13:45-14:35	【日本企業10社からのプレゼン】
14:35-15:05	【パネルディスカッション】 鈴木 秀生 内閣官房 健康・医療戦略室 国際保健担当大使 肥後 裕輝 九州大学留学生センター 教授、九州大学アジア・オセアニア研究教育機構 (Q-AOS) エイジングモジュール長 五味 郁子 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 栄養学科 教授 森山 智彦 九州大学病院 国際医療部 アジア遠隔医療開発センター長
15:05-15:25	【アジア健康構想の日本政府・関係機関からのコメント、参加者からの質疑応答】 経済産業省、厚生労働省、JICA、JETRO
15:25-15:30	【謝辞（所感、今後の進め方）】 鈴木 秀生 内閣官房 健康・医療戦略室 国際保健担当大使
15:30-16:30	参加者交流会



## 7. まとめと今後の方向性

### 結果のまとめ

- 本事業において、ベトナムにおける高齢化及び栄養関連の課題における日越協力のためのロードマップを作成し、日本の政策知見や展開可能なソリューション例を含めた長期的な協力の方向性について合意することができた。
- ハノイ及びホーチミンにおける官民イベントの開催により、ベトナムにおける保健課題に対応し得る日本企業のソリューションや、高齢化や栄養等の分野における日本の政策知見、協力事例等について日越間で共有することができた。
- インドネシアについては、現地医療関係者、病院、企業、政府機関・国際機関等とのネットワークを構築すると同時に、現地の保健課題として特に課題となっている点について、健康診断を含むプライマリーヘルスケアの強化と、医師・看護師不足という課題に起因する人材育成、とりわけ専門医・専門看護師の育成等の課題を把握することができた。

### 今後の方向性：アジア健康構想全体

- 今後、グローバルサウス諸国との連携が重要となる中で、保健分野における連携も重要であり、現地のニーズに基づいた取組の充実を図る必要がある。そのような認識の下、アジア健康構想・アフリカ健康構想・グローバルヘルス戦略を一体的に推進し、アジアで我が国の健康・医療関連産業の国際展開を図るとともに、産学官医の現地キーパーソンと連携した枠組みの整備も進め、国際機関、官民連携基金等との協力や多様なステークホルダーとの連携、国際公共調達への参入拡大、インパクト投資等の推進による国内外での健康・医療分野への官民合わせた資金循環の拡大、規制調和の推進等に取り組む。

### 内閣官房におけるアジア健康構想関連事業の方向性

- アジア健康構想の司令塔として、関連府省庁・機関の施策の全体調整を行うとともに、相手国政府・市場のニーズに基づいた日本企業の強みを活かせる形での取組を推進する。
- 実施する事業としては、MOCを署名しているアジア各国とのヘルスケア合同委員会や現地での官民イベント等を通じて、各国のニーズを把握しつつ、日本の知見共有、日本企業のソリューション紹介を図っていく。

#### 今後の方向性（案）：ベトナム

- 高齢化・栄養分野等のベトナム側からの協力ニーズの高い分野において、日本の政策知見の共有、日本企業のソリューションの紹介など、ロードマップのフォローアップを中心とした具体的な取組を推進していく。

#### 今後の方向性（案）：インドネシア

- 本年度調査で得られた現地の保健課題等の情報を踏まえ、MOCの更新を行い二国間の保健分野での協力を推進していく。

## 8. 参考

---

- ハノイイベント開催報告

[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/torikumi/health\\_asia\\_241112\\_report.html](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/torikumi/health_asia_241112_report.html)

- ホーチミンイベント開催報

[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/torikumi/health\\_asia\\_241114\\_report.html](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/torikumi/health_asia_241114_report.html)

- 日本政府とハノイ医科大学病院との間で高齢化及び栄養関連の課題における日越協力のためのロードマップ

(日) [https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/torikumi/pdf/roadmap\\_j.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/torikumi/pdf/roadmap_j.pdf)

(英) [https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/torikumi/pdf/roadmap\\_e.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/torikumi/pdf/roadmap_e.pdf)

- 成果報告会開催報告

[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/vietnam\\_healthcare/health\\_asia\\_r61209\\_report.html](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/vietnam_healthcare/health_asia_r61209_report.html)

未来を問い続け、変革を先駆ける

**MRI** 三菱総合研究所